

守山企業景況調査報告書

(第31回)

平成29年4月～平成29年6月期 実績

平成29年7月～平成29年9月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 70 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	18	90.0%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	19	17	89.5%
卸売業	6	5	83.3%
合計	70	63	90.0%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月、見通しを平成 29 年 7 月～平成 29 年 9 月とし、調査時点は平成 29 年 7 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 29 年 4 月～6 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 29 年 4 月～6 月期の調査結果では、売上高、業況、採算の主要 3 指標で前回調査より数値が上昇し、資金繰りは低下した。

<業況>

業況 DI は▲9.7 で前回調査の▲23.3 から 13.6 ポイント上昇した。業種別では、小売業▲16.7（前回調査比+6.8）、製造業 0.0（前回調査比+22.2）、建設業 18.2（前回調査比+36.4）、サービス業▲17.6（前回調査比+5.9）、卸売業▲40.0（前回調査比▲6.7）と小売業、製造業、建設業、サービス業が上昇した。

7 月～9 月期見通しは全体で▲22.6 であり、低下の見込である。

<売上高>

売上高 DI は▲4.8 で前回調査より 13.5 ポイント上昇した。業種別では、小売業▲16.7（前回調査比+6.8）、製造業 25.0（前回調査比+25.0）、建設業 0.0（前回調査比+9.1）、サービス業▲5.9（前回調査比+23.5）、卸売業▲40.0（前回調査比▲23.3）であり、卸売業だけが低下した。

7 月～9 月期見通しは全体で▲6.5 となっており、低下の見込である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲12.9 で前回調査より 13.8 ポイント上昇した。業種別では、小売業▲16.7（前回調査比+12.7）、製造業▲8.3（前回調査比+2.8）、建設業▲9.1（前回調査比+18.2）、サービス業▲17.6（前回調査比+11.8）、卸売業 0.0（前回調査比+33.3）で全ての業種で上昇している。

7 月～9 月期見通しは全体で▲21.0 であり、今回調査実績から低下している。

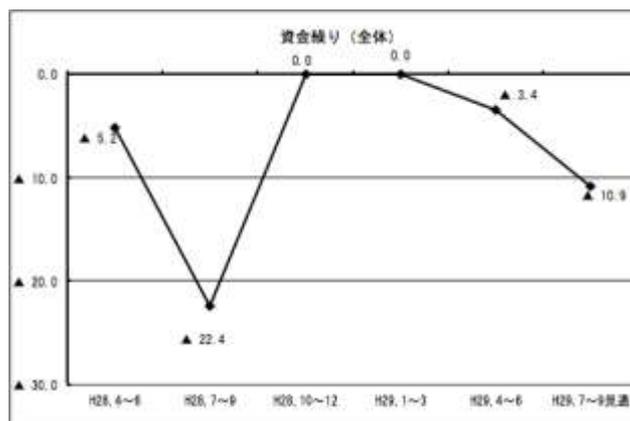
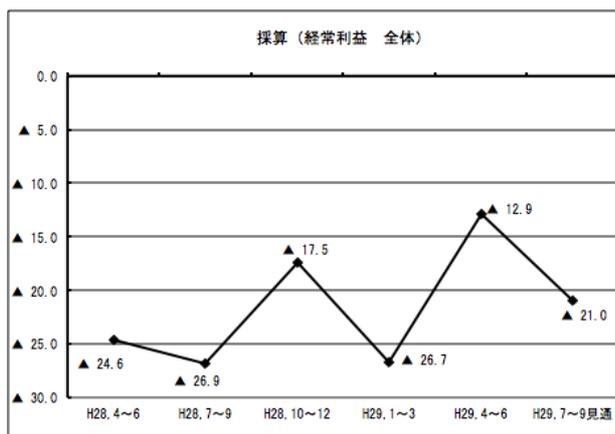
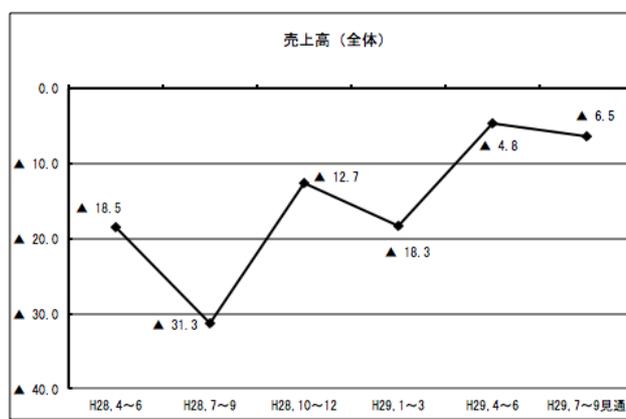
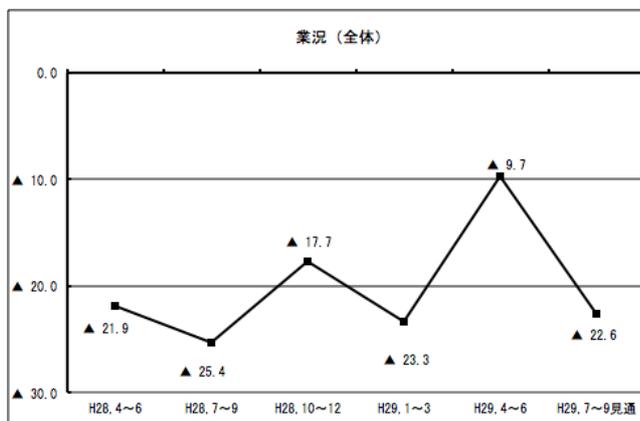
<資金繰り>

資金繰り DI は▲3.4 で前回調査から 3.4 ポイント低下した。業種別では小売業▲11.1（前回調査比▲5.2）、製造業 9.1（前回調査比+21.6）、建設業 9.1（前回調査比+9.1）、サービス業▲15.4（前回調査比▲23.1）、卸売業 0.0（前回調査比▲16.7）であった。

7 月～9 月期見通しは全体で▲10.9 であり、今回調査実績から低下している。

<その他の意見>

- ・格差が広がる偏った成長性に問題も感じる。
- ・規制のない経済はいずれ破綻する。



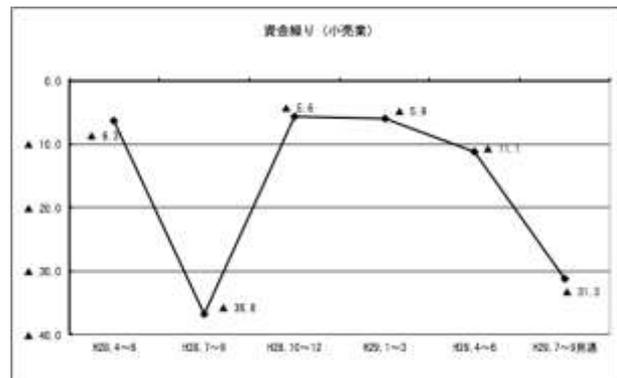
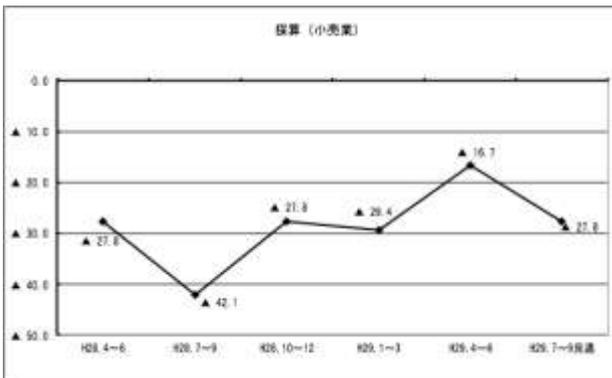
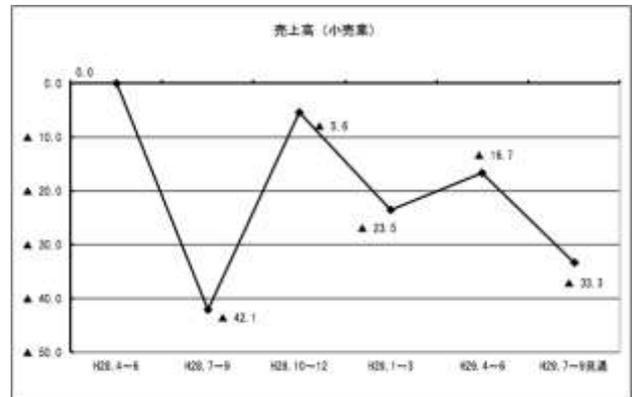
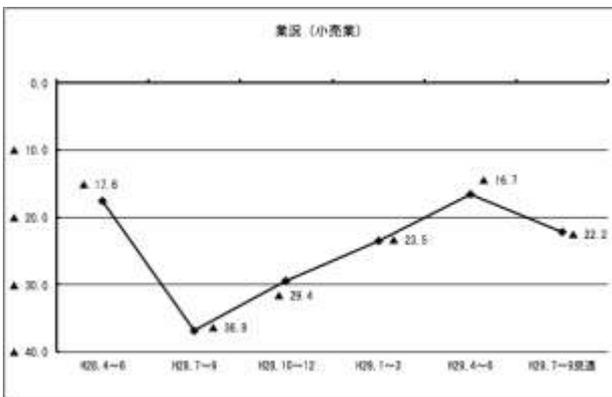
小売業

小売業の業況DIは▲16.7で前回調査より6.8ポイント上昇した。3四半期連続の上昇である。1年前の▲17.6と比べても0.9ポイント高い数値になっている。7月～9月期見通しは▲22.2と低下しており3四半期連続で上昇した反動に警戒が出ている。

売上高DIは▲16.7で前回調査より6.8ポイント上昇した。売上高は上昇と低下を繰り返しており、今回は上昇の順になった。しかし、上昇幅が小さくなっていることからこの先に対して不安が残る結果であった。7月～9月期見通しは▲33.3で低下の順通りの見込みになっている。

採算DIは▲16.7で前回調査より12.7ポイント上昇した。過去1年間では最も高い数値が出ている。今回調査期間中の上昇風が感じられる。7月～9月期は▲27.8と前回調査と同様水準まで低下しており、採算の見通しは明るくない。

資金繰りDIは▲11.1で前回調査より5.2ポイント低下した。前回、前々回と回復していた資金繰り指標であるが、今回調査ではっきり低下に転じた。7月～9月期は▲31.3とさらに低下している。



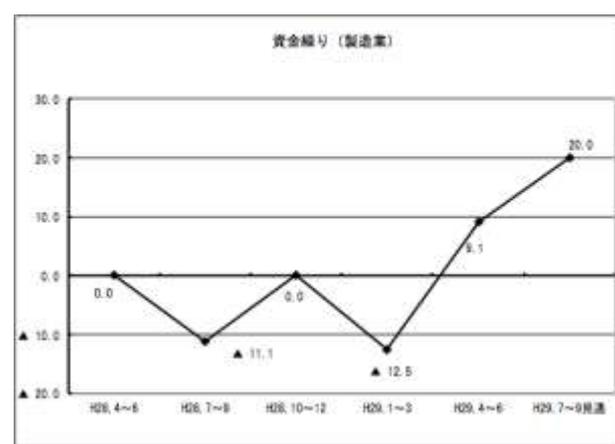
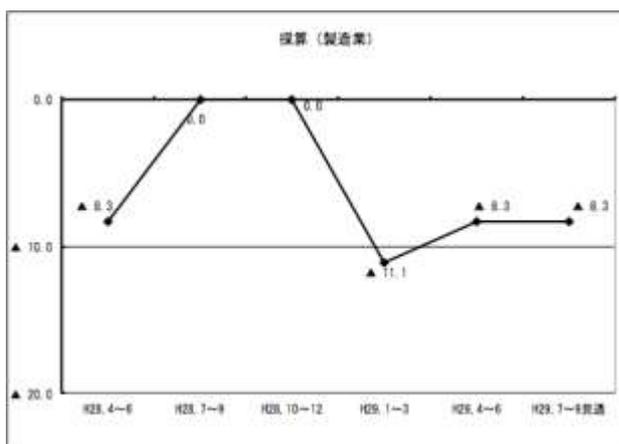
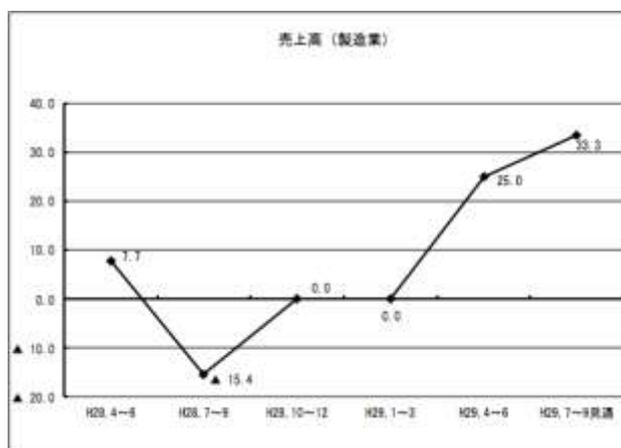
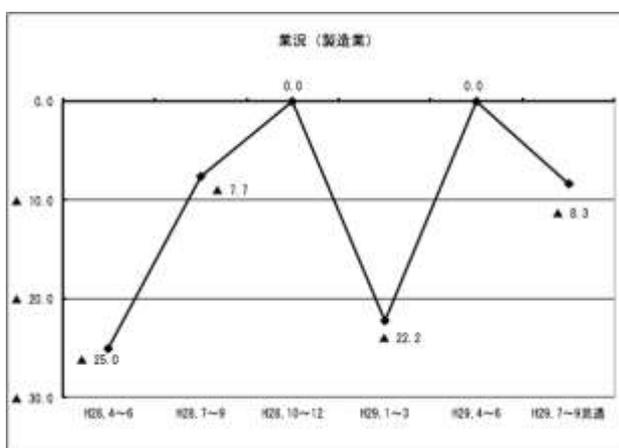
製造業

製造業の業況DIは0.0と前回調査に比べて22.2ポイント上昇した。順調に回復していた業況が前回調査で一気に下降したが、今回調査で数値を戻しており、前回調査が一過性のものであったように感じられる。7月～9月期見通しは▲8.3と再び低下しており、不安が覗く調査結果になっている。

売上高DIは25.0で前回調査より25ポイント上昇した。1年前の▲15.4を底に上昇基調にあることがわかる。7月～9月期見通しも33.3という結果であるので、この傾向は少しの間続きそうである。

採算DIは▲8.3で前回調査より2.8ポイント上昇した。業況、売上高は上昇基調であるが、採算はそれほど大きく上昇していない。7月～9月期見通しは▲8.3と今回調査と同じ数値であり、大きく採算が悪化する懸念は払拭されているようである。

資金繰りDIは9.1で前回調査より21.6ポイント上昇した。過去1年間を見るとこれほど大きな上昇は見られず好転したと言っても問題はなさそうである。7月～9月期見通しは20.0とさらにプラスになっているので、資金繰りはかなりよくなっているようである。



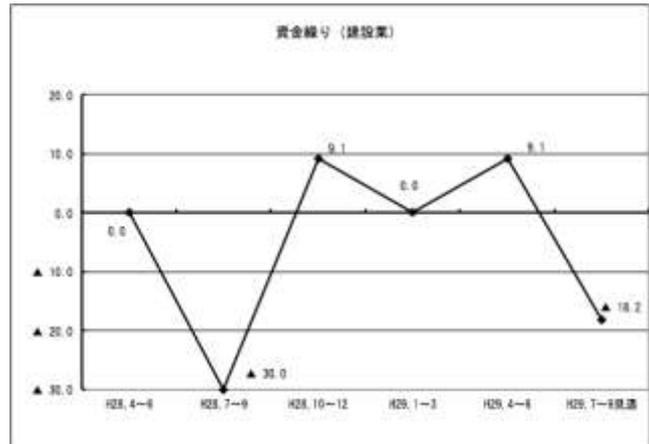
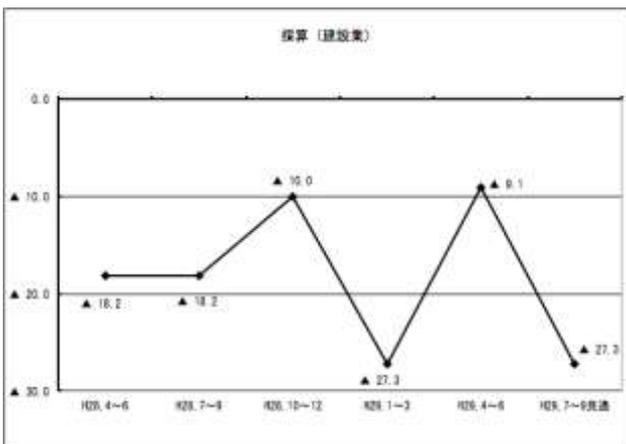
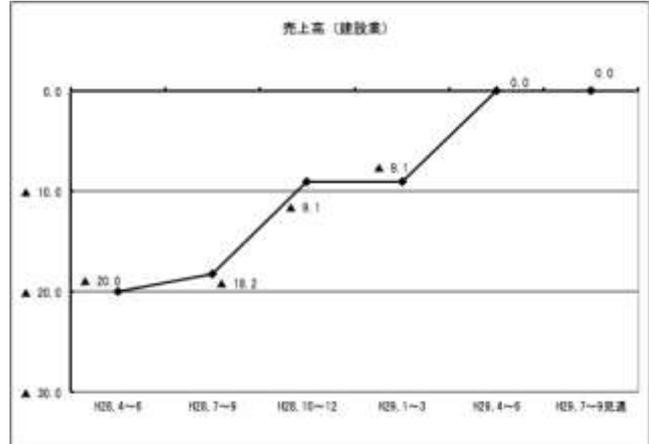
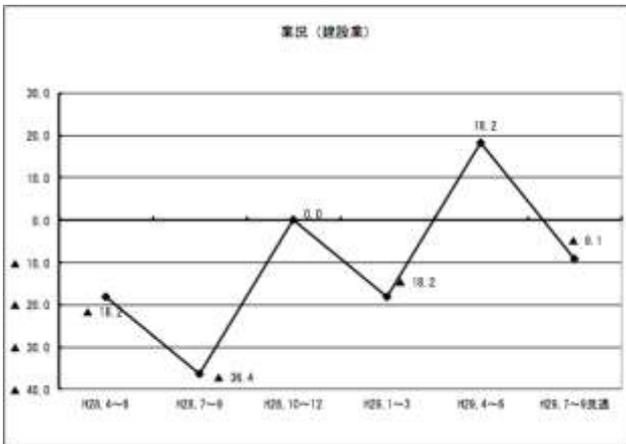
建設業

建設業の業況DIは18.2であり前回調査より36.4ポイント上昇した。1年単位の以上なかったプラス領域の数値である。トレンドとしては上昇局面であるのでこの先が期待されるところである。7月～9月期見通しは▲9.1と落ち込みを予想しているが、前回調査の▲18.2よりも数値は高く厳しい状況は脱した感がある。

売上高DIは0.0で前回調査より9.1ポイント上昇した。前回調査で横ばいとなった数値が上昇に転じており、売上高も上昇の基調になってきている。7月～9月期も0.0で今回調査と同じであり、上昇基調を維持していると見込まれている。

採算DIは▲9.1で前回調査より18.2ポイント上昇した。採算DIは上昇したが、依然マイナスの領域の数値であり、採算性の改善は大きく進んでいないと言える。7月～9月期見通しは▲27.3となっており、売上高が上昇しない分だけ採算は下降する見通しとなった。

資金繰りDIは9.1で前回調査より9.1ポイント上昇した。資金繰りはここ3四半期安定していると考えられる。しかし、7月～9月期見通しは▲18.2と一気に低下しており、資金繰りの不安が出てくる予想となっている。



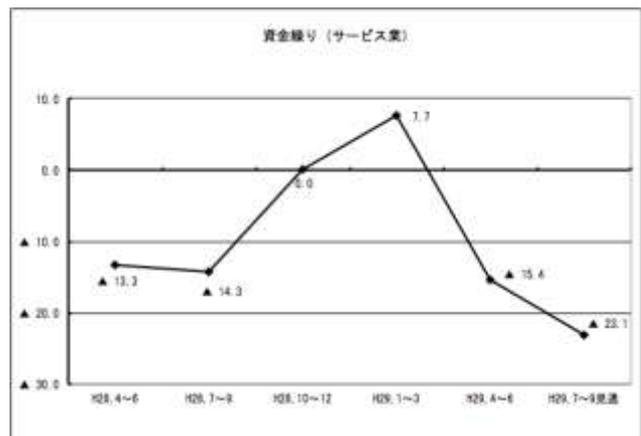
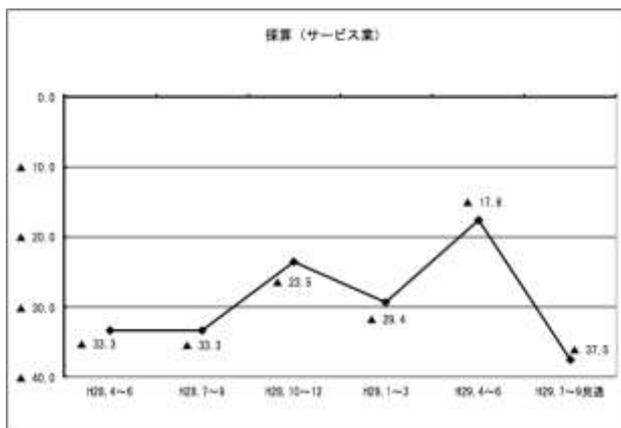
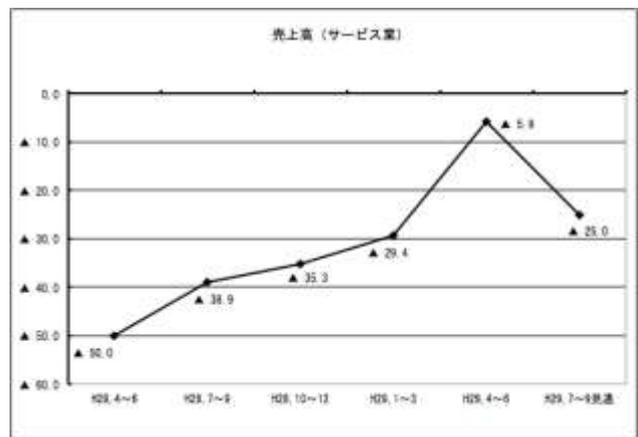
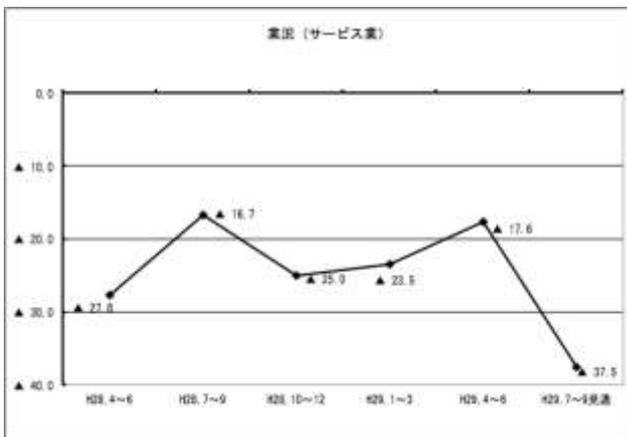
サービス業

サービス業の業況DIは▲17.6で前回調査より5.9ポイント上昇した。2四半期連続の上昇である。ここ1年は低位安定のような傾向が続いている。7月～9月期見通しは▲37.5となっており、低位安定の傾向が崩れ、下降局面が予想されている。

売上高DIは▲5.9で前回調査より23.5ポイント上昇した。平成28年4月～6月期を底に4四半期連続で上昇している。売上高は順調に回復してきているようである。7月～9月期は▲25.0となっており1年単位の続いた上昇が反転する警戒感が見通しに出ている。

採算DIは▲17.6で前回調査より11.8ポイント上昇した。業況と同じく低位安定で推移してきた採算DIが少し上向きになった。しかし、7月～9月期見通しは▲37.5と大きく下げており、上昇分のプラスは一気に帳消しになるかのような見通しになっている。

資金繰りDIは▲15.4で前回調査より23.1ポイント低下した。2四半期連続で上昇していた資金繰りであるが、今回調査では一気に悪化した。7月～9月期は▲23.1でさらに資金繰りが厳しくなる見通しとなっている。



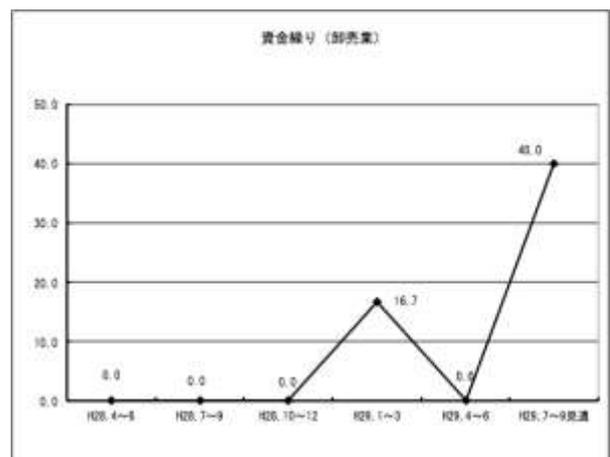
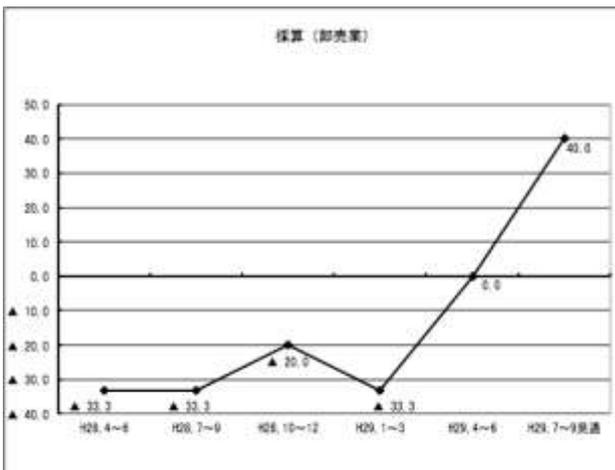
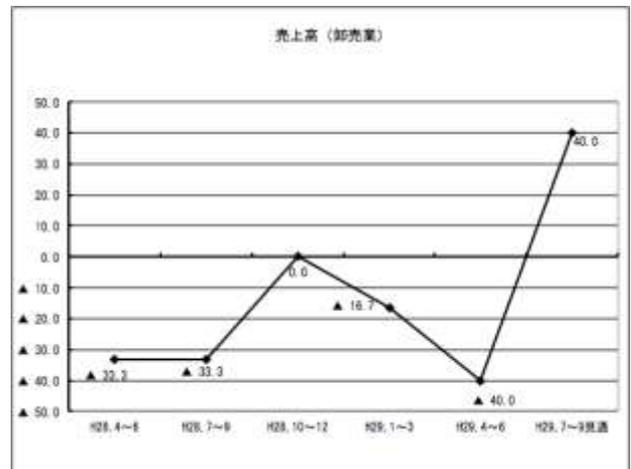
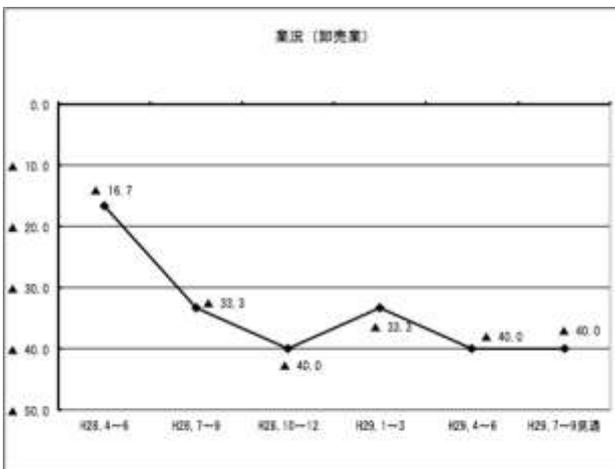
卸売業

卸売業の業況DIは▲40.0となり前回調査に比べて6.7ポイントの低下である。ここ4四半期は▲33.3、▲40.0、▲33.3、▲40.0と同じような数値が続いている。7月～9月期見通しも▲40.0でこの傾向から脱却できる見込みはないかのような結果である。

売上高DIは▲40.0で前回調査より23.3ポイント低下した。売上高の動きも業況と同じように低調である。しかし、7月～9月期見通しは40.0と一気に上昇見通しとなっており、次の四半期に寄せる期待は高い。

採算DIは0.0で前回調査より33.3ポイント上昇した。採算も業況、売上高と共に低位安定で推移していたが、今回調査では一気に0.0まで上昇した。採算性は良くなったようである。7月～9月期見通しでも40.0となっており、採算性は改善が著しいと思われる。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査より16.7ポイント低下した。卸売業の資金繰りDIは前回調査でプラスになったが今回調査では0.0に戻った。しかし、資金繰りが悪化したと言うことではなさそうである。7月～9月期見通しは40.0で大きく改善が見通されている。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全 体	▲ 9.7	▲ 22.6	▲ 4.8	▲ 6.5	▲ 12.9	▲ 21.0
小売業	▲ 16.7	▲ 22.2	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 27.8
製造業	0.0	▲ 8.3	25.0	33.3	▲ 8.3	▲ 8.3
建設業	18.2	▲ 9.1	0.0	0.0	▲ 9.1	▲ 27.3
サービス業	▲ 17.6	▲ 37.5	▲ 5.9	▲ 25.0	▲ 17.6	▲ 37.5
卸売業	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 40.0	40.0	0.0	40.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全 体	11.1	10.0	▲ 18.3	▲ 26.3	3.4	6.9
小売業	11.1	▲ 5.6	▲ 6.7	▲ 20.0	13.3	13.3
製造業	25.0	54.5	▲ 8.3	▲ 9.1	0.0	8.3
建設業	▲ 18.2	0.0	0.0	▲ 9.1	0.0	9.1
サービス業	17.6	▲ 13.3	▲ 41.2	▲ 46.7	▲ 6.3	▲ 13.3
卸売業	20.0	60.0	▲ 40.0	0.0	20.0	40.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全 体	▲ 3.4	▲ 10.9	6.1	▲ 2.1	8.7	2.2
小売業	▲ 11.1	▲ 31.3	0.0	▲ 7.7	8.3	8.3
製造業	9.1	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	9.1	▲ 18.2	20.0	0.0	20.0	0.0
サービス業	▲ 15.4	▲ 23.1	9.1	0.0	10.0	0.0
卸売業	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0

過去からの動向

